



泗水小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 泗水小」



泗水小学校
学校だより No40
文責 芹川博文
3月1日(金)

ヒバリ と たんぽぽ から感じること ～ 誰もが安心してチャレンジする学校を目指して ～

「好きな鳥は何ですか」と聞かれたら、私はヒバリと答えるでしょう。

春の訪れを感じさせるヒバリのさえずりが、先週あたりから泗水小の近くの田園でも聞かれるようになりました。

小さな羽をばたつかせて、上に上にと懸命に飛び姿。疲れるのか急降下で落ちますが、しばらくするとピロピロと力強く鳴きながらまた飛び始めます。見ていて力をもらいます。

「たんぽぽ」 ※泗水小2月の歌

雪の下 ふるさとの夜
冷たい風と 土の中で
青い空を 夢に見ながら
野原に咲いた 花だから
どんな花より たんぽぽの
花をあなたに 送みましょう
どんな花より たんぽぽの
花をあなたに 送みましょう



泗水小2月の歌は「たんぽぽ」でした。上の歌詞の様に力強く、どんなに踏まれても、また背を伸ばし、黄色い花を咲かせ白い綿毛の種になる。ふーっと吹くと、待ってましたとばかりに一斉に飛び立ち、着地した地面で次の季節をじっと待つたんぽぽ。その健気さに惹かれます。

泗水小では児童会選挙を行いました。現4、5年生とも執行部人数の倍以上の立候補があり、「悪口や傷つく言葉がなくなる学校に」「みんながあいさつを交わし、気持ちよく過ごせるように」など、それぞれの学校に対する思いを込めて発信しました。立候補した一人一人の思いを想像する時、そのチャレンジした勇氣、不安な思いを乗り越えて学校を良くしようとする思いの強さが伝わってきます。

また、先週末は第2回パフォーマンスフェスティバルを開催しました。授業以外でも頑張っていることや特技等を発表し、お互いの良さに気づき認め合える学校にしたいと願い、なかまづくり委員会が企画しました。発表した子どもたちの勇氣とチャレンジを思う時、不安や緊張感を乗り越えて発表した姿に感動します。

誰もが安心してチャレンジできるためには、「このクラスなら言える」「このなかまだから発表できる」という信頼関係が不可欠です。そのためには、発表する人の思いをしっかりと受け止める聞く側も、発表者と同じくらい大切になります。

ヒバリが何度も大空に向かって舞いあがるように、たんぽぽが踏まれても力強く咲くように、子どもたちが、何度も安心してチャレンジできる、安心して自分が表現できる学校を目指します。



「笑い」は相手がいて、初めて生まれるんだよ。相手を信用しないと笑えないよ。

萩本欽一（コメディアン）

15分早い日課 継続します

～ 児童や保護者の声をお寄せください ～

昼休み時間を45分間から30分間にするこ
とで、15分早く下校する日課について、3月末
まで継続することにしました。

次年度の日課をどうするかについては、児童や
保護者の声も聴かせていただきながら検討して
いきたいと考えます。15分早めた場合、6時間
授業の日で3時45分下校となります。

15分早く帰宅することで、児童の家庭生活時
間の確保、職員の教材研究時間の確保等で、持続
可能な生活リズムがメリットとして考えられま
す。一方、ゆとりのある学校生活が可能かという
課題があります。

より良い学校生活を多面的に考えて参ります。

閏（うるう）年 2月29日に思う

～ 4年に1度の「特別な1日」～

この日、地球が太陽の周りを回っていることを
イメージしました。「1年は365日」ですが、正
確には「約365.2422日」で回るとのこと。
閏年の2月29日は、その誤差を調整する日とい
えます。

閏年はオリンピックの年でも
あります。前回のオリンピック
は東京開催。ただ、コロナの影
響で1年延期されました。今の
1年生は3歳の頃です。覚えて
いる人は少ないかもしれません。

今年はパリ開催。子どもたちは、1つ進学・進
級した学年の夏休みに観戦することでしょう。時
の流れの速さに驚かされるこの頃です。

